

## I. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

今日の西洋世界を形作った文明の起源をたどってみよう。人類の歴史のなかできわめて大きな意義をもつ発明の一つは、火の使用である。一般に、火を使用するようになったのは北京原人などの (1) (2) であるとされ、彼らはすでに言葉をもっていたと言われる。人類は狩猟や採集をしながら集団生活を営み、進化にともなって精神文化を発達させていった。約 (3) (4) 万年前に出現した旧人は死者の埋葬をおこなっており、宗教意識の芽生えが見られる。また、約 (5) (6) 万年前に誕生した新人は洞穴絵画を残し、その代表的な遺跡にはスペインの (7) (8) がある。このように、生命維持のための物理的機能をもたない創作行為の萌芽がすでに先史時代に認められる。

文明の基盤となる農耕と牧畜は約9000年前に西アジアで始まった。獲得経済から生産経済へのこの大変革の結果、多数の人間を統一的に支配する国家の仕組みが生まれ、地域的特徴に応じた独自の文明が作られた。地域の大部分が現在の (9) (10) に相当するメソポタミアでは灌漑農業が始まり、特にシュメール人の都市国家では青銅器、度量衡、<sup>(a)</sup> 暦など現代の文明の基礎をなす技術や考え方が生まれ、前24世紀に (11) (12) 人に征服されるまでその文化は繁栄を見せた。都市間の交易も活発化し、前7世紀になると、最古の金属貨幣が、(13) (14) を首都とするリディアで流通し、隣接するギリシア都市へと伝播した。一方で、文明の副産物として貧富の差が拡大し、<sup>(b)</sup> 戦争もおこなわれるようになった。

文字の起源はシュメール人の<sup>(c)</sup> 楔形文字にあると言われるが、これはおもに政治や商業の記録を残すために作られ、(15) (16) 文字が普及するまでオリエント世界で広く使用された。この楔形文字は19世紀に (17) (18) らによって解読された。前 (19) (20) 世紀にメソポタミア全土を統一したバビロン第1王朝のハンムラビ王は、諸民族が混在する国家を統治するために、各地の法慣習を集大成した法典を發布した。楔形文字で書かれたこの法典では、被害者の (21) (22) によって刑罰に差がつけられていた。この法典が刻まれた石碑は、1901年に (23) (24) で発見され、現在は (25) (26) に所蔵されている。同じく楔形文字で書かれた『ギルガメシュ叙事詩』は、都市国家 (27) (28) の王を主人公とする世界最古の文学であると言われる。

「エジプトはナイルのたまもの」とは、古代ギリシアの歴史家 (29) (30) の言葉である。ナイル川の定期的な氾濫が麦の栽培に適しており、農耕文明の繁栄を可能にしたからである。エジプトでは、シュメールの絵文字の影響を受けて作られたヒエログリフが用いられた。この文字を含む「死者の書」は冥界の神 (31) (32) の審判を受けるためのもので、来世信仰が芽生えていたことを示している。(33) (34) によって解読されたヒエログリフは、表意文字と表音文字の双方の機能をもっていた。現在の (35) (36) をおもな拠点として活動していたフェニキア人は、ヒエログリフを祖とする表音文字であるシナイ文字からアルファベットの原型を考案し、それが地中海世界の各地に伝わった。

古代オリエントでは元来、多神教が支配的であった。エジプトでは、太陽神を中心とする信仰が主流であったが、新王国の<sup>(d)</sup> アメンホテプ4世は、(37) (38) を唯一神とする改革をおこなった。この新たな信仰形態はユダヤ教やイスラーム教などの一神教に影響を与えたと言われる。キリスト教は、ユダヤ教の (39) (40) 派の律法主義を批判して神の絶対愛と隣人愛を説いたイエスの教えを、後世の人々が信仰したことで広まっていった。一方、古代ギリシアでは、主神 (41) (42) を中心とするオリンポス12神を描いたギリシア神話が作られた。また、これらの神々は (43) (44) によって体系化された。古代ローマも多神教であったが、皇帝も神の一人とされた。しかし、唯一絶対の神を信じる

キリスト教徒は皇帝礼拝を拒んだため、反社会集団とみなされて迫害が繰り返された。その後キリスト教は国教化されるが、教義をめぐる論争は続いた。その過程で、<sup>(e)</sup>教父と呼ばれる指導者たちが信仰の規範を定め、神学の発展に貢献した。こうした展開の一方で、ユダヤ教徒は長い間<sup>(f)</sup>受難の歴史をたどることとなった。

問1 文中の空欄 (1) (2) ～ (43) (44) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A(マークシート)の解答欄 (1) ～ (44) にマークしなさい。

- |                |            |            |              |
|----------------|------------|------------|--------------|
| 11 17          | 12 18      | 13 19      | 14 20        |
| 15 40          | 16 60      | 17 80      | 18 アッカド      |
| 19 アッシリア       | 20 アトン     | 21 アポロン    | 22 アムル       |
| 23 アモン         | 24 アラム     | 25 アーリマン   | 26 アルタミラ     |
| 27 イシス         | 28 イスラエル   | 29 イラク     | 30 イラン       |
| 31 ヴィレンドルフ     | 32 ヴェントリス  | 33 ウバイド    | 34 ウル        |
| 35 ウルク         | 36 エヴァンズ   | 37 エクバタナ   | 38 エッセネ      |
| 39 エルミターージュ美術館 | 40 オシリス    | 41 カッシート   | 42 サドカイ      |
| 43 サルデス        | 44 シャンポリオン | 45 宗教      | 46 シュリーマン    |
| 47 シリア         | 48 人種      | 49 スサ      | 50 ゼウス       |
| 51 ソグド         | 52 大英博物館   | 53 トウキディデス | 54 ニネヴェ      |
| 55 パリサイ        | 56 ヒッタイト   | 57 ピンダロス   | 58 ファラオ      |
| 59 ヘシオドス       | 60 ヘラクレイトス | 61 ペルセポリス  | 62 ヘロドトス     |
| 63 ペロポネソス      | 64 ポセイドン   | 65 ホメロス    | 66 ホモ=エレクトゥス |
| 67 ホモ=サピエンス    | 68 ホモ=ハビリス | 69 ミトラス    | 70 身分        |
| 71 メンフィス       | 72 ヨルダン    | 73 ラー      | 74 ラガシュ      |
| 75 ラスコ         | 76 ルーヴル美術館 | 77 レバノン    | 78 ローリンソン    |

問2 下線部(a)に関連して、太陰暦とはどのような原理に基づく暦か。解答用紙Bの所定の欄に20字以内で説明しなさい。

問3 下線部(b)に関連して、世界最古の講和条約が結ばれた戦争が起こったシリアの都市の名前は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問4 下線部(c)に関連して、ペルシアの公道「王の道」に面した岩壁に刻まれ、楔形文字の解読の手がかりとなった史料の名称は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問5 下線部(d)に関連して、この王の時代には写実性豊かなアマルナ美術が栄えたが、それを代表する彫像のモデルとなった王妃の名前は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問6 下線部(e)に関連して、『教会史』を著し、皇帝位は神の恩寵によって与えられると説いた教父は誰か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問7 下線部(f)に関連して、ユダヤ人の離散を意味する語は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

## II. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

ゲルマン人の大移動は西ヨーロッパ世界の形成に大きな役割を果たした。この大移動の口火を切ったのは西ゴート人である。フン人の西進に圧迫された彼らは、376年に (45) (46) 川をわたってローマ帝国の領内に入り、その後イベリア半島に西ゴート王国を築いた。黒海沿岸に住んでいた東ゴート人は、5世紀中頃にフン人の支配を脱すると、(47) (48) に率いられてイタリアに向かい、東ゴート王国をたてた。また、(49) (50) 人は北アフリカに、ランゴバルド人は北イタリアに移動してそれぞれ建国した。その間、フン人は(51) (52) の治世にパンノニアを中心とした大帝国をたてるが、451年に(あ)の戦いで西ローマとゲルマンの連合軍に敗れ、急速に衰えた。

ゲルマン人の国家のなかで最も勢力を拡大したのは、ガリア北部にたてられたフランク王国であった。その礎を築いたのはメロヴィング家のクローヴィスである。彼は5世紀後半に全フランクを統一すると、他のゲルマン人とは異なり正統派の(53) (54) 派に改宗してローマ教会との結びつきを強めた。8世紀に入りカロリング家が実権を握ると、フランク王国とローマ教会はさらに接近する。宮宰カール＝マルテルが、ガリアに侵攻してきた(55) (56) 朝のイスラーム勢力を破りカトリック圏での名声を高めると、教皇はカール＝マルテルの息子ピピンにフランク王位の継承を認め、ピピンはその見返りとして、ランゴバルド王国から奪った(57) (58) 地方を教皇に寄進するのである。その後、ピピンの子<sup>(a)</sup>カール大帝が西ヨーロッパの大半を支配すると、800年、教皇レオ3世はローマの(59) (60) 大聖堂でカールにローマ皇帝の帝冠を授け、教会の守護者に任じた。

カール大帝の死後、フランク王国は870年の(61) (62) 条約で東・西フランクおよびイタリアの3国に分裂する。東フランク（ドイツ）では、(63) (64) 年にオットー1世がローマ皇帝として戴冠されて以来、王は皇帝位を兼ねるようになるが、その支配は長らく安定しなかった。その後イタリアでも、(65) (66) 人のたてた南部のシチリア王国、中部の教皇領、そして<sup>(b)</sup>北部の自治都市が分立する状況が生まれる。一方、西フランク（フランス）では、はじめ弱体であったカペー朝の王権が12世紀末から伸張し、やがて教権をしのぐ存在に成長していく。国王(67) (68) が教皇ボニファティウス8世を捕らえたアナーニ事件は、それを象徴する出来事であった。イベリア半島では、8世紀初めに西ゴート王国がイスラーム教徒に滅ぼされて以来、国土回復運動が進められ、回復された領土には12世紀半ばまでにカスティリヤ、(69) (70)、ポルトガルの3王国がたてられた。

東ヨーロッパでは、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）がゲルマン人の移動に大きな影響を受けることなく君臨し続け、6世紀の(71) (72) 帝の時代には地中海のほぼ全域にその勢力を拡大した。法学者(い)を中心に『ローマ法大全』が編纂されたのも、この頃である。だが、長期の戦争政策は国力を低下させ、7世紀にはイスラーム勢力にシリアやエジプトを奪われるなど、帝国の支配権は少しずつ縮小していく。こうしたなか、(73) (74) の治世には、軍管区制の施行をはじめとした統治機構の整備がおこなわれた。その後、聖像禁止令で知られる皇帝(75) (76) のもとでも国政の立て直しがはかられ、9世紀後半からビザンツ帝国は再び繁栄を見せるが、11世紀には東方から(77) (78) 朝の侵入を受け、13世紀には<sup>(c)</sup>第4回十字軍に首都を占領されるなど、国内の混乱は続いた。

6世紀以降、東欧全域に広がったスラヴ人の動向も見過ごすことはできない。東スラヴ人が定住したドニエプル川流域には、ルーシと呼ばれる人々が9世紀に(79) (80) 公国を建国し、やがてスラヴ化した。同国は、<sup>(d)</sup>ギリシア正教を国教とした(81) (82) の治世に最盛期を迎えるが、13世紀には

モンゴルの支配に服した。南部に展開した南スラヴ人の最大勢力は (83) (84) 人である。彼らはビザンツ帝国の支配下に入りギリシア正教に改宗したが、12世紀には独立してバルカン半島に建国した。これに対して、ポーランド人やチェック人などの西スラヴ人は、一部の南スラヴ人と同様、ローマ=カトリックの文化圏に入った。スラヴ人の世界では東西両教会の勢力がせめぎあっており、そのことは、ギリシア正教に改宗したブルガール人や、ハンガリー王国を建国しローマ=カトリックを受容した (85) (86) 人のような非スラヴ系諸民族の動向にも見てとることができる。

問1 文中の空欄 (45) (46) ～ (85) (86) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A(マークシート)の解答欄 (45) ～ (86) にマークしなさい。

- |             |             |             |              |
|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 11 962      | 12 987      | 13 1016     | 14 アイユーブ     |
| 15 アヴァール    | 16 アタナシウス   | 17 アッティラ王   | 18 アッバース     |
| 19 アラゴン     | 20 アリウス     | 21 アルフレッド大王 | 22 イヴァン3世    |
| 23 ヴァンダル    | 24 ヴェルダン    | 25 ウマイヤ     | 26 ウラディミル1世  |
| 27 オゴタイ     | 28 オドアケル    | 29 キエフ      | 30 グラナダ      |
| 31 グレゴリウス1世 | 32 クロアチア    | 33 ケルト      | 34 サヴォイア     |
| 35 ザクセン     | 36 サンタ=マリア  | 37 サン=ピエトロ  | 38 シャルル7世    |
| 39 スティリコ    | 40 スペイン     | 41 スロヴェニア   | 42 セルジューク    |
| 43 セルビア     | 44 テオドリック王  | 45 トスカナ     | 46 ドナウ       |
| 47 ドン       | 48 ネストリウス   | 49 ネルウァ     | 50 ノルマン      |
| 51 ノルマンディー  | 52 ハイน์リヒ4世 | 53 ハギア=ソフィア | 54 ピレネー      |
| 55 フィリップ2世  | 56 フィリップ4世  | 57 プロイセン    | 58 ヘラクレイオス1世 |
| 59 マジャール    | 60 マムルーク    | 61 メルセン     | 62 ユスティニアヌス  |
| 63 ユリアヌス    | 64 ライン      | 65 ラヴェンナ    | 66 リトアニア     |
| 67 リューリク    | 68 ルイ9世     | 69 ルートヴィヒ1世 | 70 レオン3世     |

問2 文中の空欄(あ)と(い)にあてはまる最も適当な語句を解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問3 下線部(a)に関連して、イングランドからカール大帝の宮廷に招かれ、アーヘンの宮廷学校の運営に尽力した神学者は誰か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問4 下線部(b)に関連して、神聖ローマ皇帝のイタリア政策に対抗するために北イタリアの諸都市が12世紀に結成した都市同盟を何というか。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問5 下線部(c)に関連して、第4回十字軍がコンスタンティノープル占領後に樹立した国家の名称は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問6 下線部(d)に関連して、ギリシア正教の宣教師たちがスラヴ人への布教のために考案し、10世紀からスラヴ圏東部に普及した文字は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

### Ⅲ. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

他国への侵略は歴史上多く繰り返されてきた。とりわけ<sup>(a)</sup>帝国主義と呼ばれる時代には、列強が競ってアジア・アフリカの領土に侵攻し、一部の国が多くの地域を植民地とした。この時代に、世界の陸地面積のおおよそ50%、人口の33%を占める地域がアメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・ロシア・日本によって支配された。

アフリカ大陸の分割は、ベルギーとドイツの動きによって激化した。アフリカ (87) (88) 部に位置するコンゴ地域の領有を目指すベルギー国王レオポルド2世の動きをきっかけにして、ヨーロッパ諸国で対立が起きた。これに対し、ビスマルクは1884年から1885年に (89) (90) 会議を開催して、先占権に基づく植民地化の原則を定めた。その結果、列強はアフリカに殺到し、各国に計り知れない被害をもたらした。とくに多くの植民地を獲得した国は<sup>(b)</sup>イギリスである。1880年代初めにエジプトを事実上の保護国としたほか、1899年には (91) (92) 人に戦争をしかけ、トランスヴァール共和国などを強引に併合した。1881年に (93) (94) を保護国としたフランスも、アフリカで積極的に勢力を拡大した。激しく競合していたフランスとイギリスの間では (95) (96) 事件が起きたが、フランスが譲歩したことで両国の関係は改善した。2国間では1904年に英仏協商が結ばれ、イギリスはエジプトへの支配権を認められ、フランスは (97) (98) への優位な立場を得た。一方、イタリアは1880年代にソマリランドの一部と (99) (100) を植民地化し、その後イタリア＝トルコ戦争の結果として (101) (102) を獲得した。このようなヨーロッパ各国による侵略行為の結果、20世紀初頭のアフリカでは大陸東部にある (103) (104) および西部にある (105) (106) の2国以外の国々は、列強によって植民地化された。

東南アジアも侵略の対象となり、19世紀末までにタイを除く国々は植民地と化した。このような動きに対して抵抗もあったが、弾圧されたものも少なくなかった。スペインに領有されていたフィリピンでは、(107) (108) 年に、独立を目指すフィリピン革命が始まった。アメリカは (109) (110) 年に勃発したスペインとの戦争を機にこの革命を支援したが、フィリピンの領有権を得るとその独立を認めず、戦争に突入した。この戦争でフィリピンはアメリカに屈し、以後本格的な植民地統治が開始された。オランダの支配下にあった<sup>(c)</sup>インドネシアでは、西洋式教育を受けた人々に民族的自覚が育ち、1920年にはアジアで最初の (111) (112) 党が設立され、独立が唱えられたが、その運動は弾圧を受けた。その後、スカルノらによって1927年に結成された政党もやがて解散に追い込まれた。一方、(113) (114) 条約でフランスに保護国化された<sup>(d)</sup>ベトナムでは、日露戦争で勝利した日本の姿に刺激された (115) (116) らが独立を目指してドンズー運動を進めた。しかし、この運動もフランスから要請を受けた日本政府の介入により失敗に終わった。それでもなお、彼らは中国の都市 (117) (118) において1912年に (119) (120) を結成し、独立運動の推進を試みたのである。

次に清にも目を向けてみよう。下関条約により、清は遼東半島の日本への割譲を余儀なくされた。その後、この半島はロシア・フランス・ドイツの働きかけによって清に返還されるが、その代わり、清はロシアに対して東清鉄道の敷設権を認めざるを得なかった。さらに1890年代後半にドイツは (121) (122) を、ロシアは遼東半島南部を、イギリスは (123) (124) と九竜半島北部を租借し、フランスは (125) (126) を租借地として獲得した。こうした各国の動きに対して、中国への関心を高めていたアメリカでは、(127) (128) が門戸開放通牒を発して他の国々をけん制した。諸外国の動きは中国の

官僚や知識人らに危機感を抱かせ、彼らの間では日本の明治維新にならった根本的な改革を主張する意見もみられた。このような背景のもと、光緒帝は<sup>(e)</sup>康有為を登用して、立憲君主制の樹立や教育制度の改革を試みた。しかし、(129) (130) と協力した保守派はクーデタを起こし、改革は短期間で失敗に終わったのである。

問1 文中の空欄 (87) (88) ～ (129) (130) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A（マークシート）の解答欄 (87) ～ (130) にマークしなさい。

- |                 |           |               |             |
|-----------------|-----------|---------------|-------------|
| 11 1876         | 12 1886   | 13 1896       | 14 1898     |
| 15 1902         | 16 1905   | 17 アギナルド      | 18 アフガーニー   |
| 19 厦門           | 20 アルジェリア | 21 アンゴラ       | 22 威海衛      |
| 23 維新会          | 24 ウィルソン  | 25 エチオピア      | 26 エリトリア    |
| 27 カメルーン        | 28 広東     | 29 ギニア        | 30 共産       |
| 31 ケニア          | 32 広州湾    | 33 膠州湾        | 34 国民       |
| 35 湖南省          | 36 サイゴン   | 37 サモリ        | 38 サン＝ステファノ |
| 39 シエラレオネ       | 40 ジブチ    | 41 ジョン＝ハイ     | 42 西太后      |
| 43 セオドア＝ローズヴェルト |           | 44 セネガル       | 45 大連       |
| 46 台湾           | 47 中      | 48 チュニジア      | 49 ドレフェス    |
| 50 ナイジェリア       | 51 南      | 52 寧波         | 53 パリ講和     |
| 54 パン＝アフリカ      | 55 ファショダ  | 56 ファン＝ボイ＝チャウ | 57 フェ       |
| 58 福建省          | 59 ブーランジェ | 60 ブール        | 61 ベトナム光復会  |
| 62 ベルベル         | 63 ベルリン   | 64 ヘレロ        | 65 北        |
| 66 民主           | 67 モロッコ   | 68 リオデオロ      | 69 李鴻章      |
| 70 リビア          | 71 リベリア   | 72 梁啓超        | 73 旅順       |

問2 下線部（a）に関連して、3C政策とはどこの国によるどのような政策か。具体的な都市名に触れながら解答用紙Bの所定の欄に30字以内で記述しなさい。

問3 下線部（b）に関連して、政治家ディズレーリの指導下で植民地政策を進めた政党の名称は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問4 下線部（c）に関連して、20世紀初めに早世した、インドネシアの女性解放運動や民族主義運動の先駆者は誰か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問5 下線部（d）に関連して、のちに南部に成立したベトナム共和国において1955年に就任した大統領は誰か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問6 下線部（e）に関連して、康有為が属していた学派は何か。その名称を解答用紙Bの所定の欄に漢字で記入しなさい。